



---

都市と地域の人をつなぐ

# 里都(さと)プロジェクト

第一回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年1月27日(金)】

---

都市と地域の人をつなぐ  
里都プロジェクト

# 「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、  
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。  
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、  
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、  
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、  
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。

都市生活者



都市と地域をつなぐ活動を行っている方々



地域生活者



## 【里都プロジェクト】

- ・コアメンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: [info@satopro.jp](mailto:info@satopro.jp)

# 第1回・里都づくりフォーラム 開催概要

\*\*\*\*\*

■タイトル: 第一回・里都づくりフォーラム

■ゲスト: 林良樹さん(千葉県鴨川市)

■開催日時: 2012年1月27日(金) 19:00~21:30ごろ (開場 18:30)

■開催場所: タイワハウス (住所:東京都渋谷区笹塚2-42-17 秋元ビル2F)

■参加者: 45名 (定員50名、参加申込みは50名超)

■本日のプログラム内容

- ー林良樹さんから、鴨川の魅力や取り組まれている活動についてのお話
- ー鴨川に訪問、体験、縁づくりを行う方法について
- ー参加者同士で意見交換・情報交換

\*\*\*\*\*



林 良樹(はやし よしき)さん

=====

アースアーティスト(地球芸術家)  
鴨川自然王国 理事  
NPO法人うず 理事長  
地域通貨 安房マネー運営委員  
T&T研究所 研究員

=====

1968年、千葉県木更津市生まれ。様々な職業を経験した後、アメリカ、アジア、ヨーロッパを放浪。

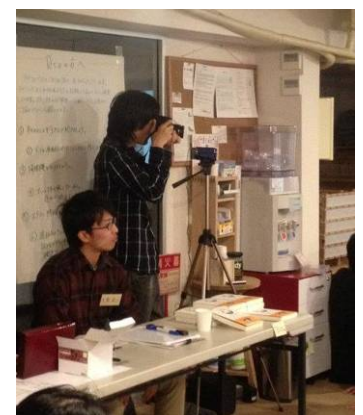
その後、鴨川の古民家に移住。現在は、家族4人で農的生活を送りながら、「半農半アーティスト」として活動中。

その活動は、芸術、農、地域通貨、教育、自然エネルギー、エコビレッジと幅広く、そのすべてが「持続可能な社会づくり」へとつながる。



# オープニング

参加者は42名。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、メンバー紹介と「プロジェクト設立の背景」「里都プロジェクトが目指すこと」などをお話させていただきました。



# 里都ナビゲーター: 林良樹さんからのお話

第1回フォーラムのゲスト(里都ナビゲーター)の林良樹さんより、自己紹介と鴨川の魅力についてお話をいただきました。





# 里都ナビゲーター：林良樹さんからのお話

## ■「ビジョン・クエスト」～社会という宇宙を旅し、自分のビジョンを探す旅に出る～

・私は1968年に、千葉県木更津市の酒問屋の4代目として生まれました。  
家業を継ぐ事は当たり前として育ち、小学生の頃の作文「将来の夢」は、酒屋になりますと書いていました。

### ・10代

大学生の時、自分の未来ビジョンが見えず大学をドロップアウトし、実家を飛び出て自分探しの旅に出ました。  
「愛とは？」「幸せとは？」「豊さとは？」「自由とは？」「仕事とは？」「生きる場とは？」「創造とは？」「平和とは？」・・・

### ・20代

バブル期の東京で約10年間、カメラマンのアシスタント、イラスト、デザイン、レストラン・バーの厨房、建築現場作業員など、様々な仕事を転々とし、現代の消費社会をローリングストーンのように旅をしました。  
アメリカ先住民スー族のリザーベーションを旅したとき、彼らの精神性「ミタクエオヤシン」と出会い衝撃を受けます。そして成田空港に立つ自分のビジョンを見ました。旅に出ようと思いました。その後、旅に出るため建設現場のバイトで400万円貯め、所有物すべてを手放し、ビジョンに従い目的地を決めない世界放浪の旅に出ます。旅の途中、イタリアで自然農を実践する農夫ダリオに出会いインスピレーションを得ました。  
スペイン・バルセロナでは、日本の農村に暮らし農的芸術生活を家族で送るビジョンを見ました。

### ・30代

帰国後、「わら一本の革命」を読み、自分たちがこれからが生きる場所について、はっきりとしたビジョンを得ます。理想の地を求め、日本各地の農村を旅した後、鴨川の里山の高台にある古民家へたどり着きます。そして釜沼北集落が持続可能なエコビレッジとなり、新しい文明へ向かうことを直感しました。  
瞑想を始め、「コトバ」を受け取り始めました。絵本「バタフライ」のイラストを描きました。  
地域通貨「安房マネー」を有志と立ち上げました。NPO、学校づくりに関わりました。持続可能な地域社会を創造するため「NPO法人うず」を設立しました。「あわのわコミュニティカフェ＆マーケット」を始めました。

### ・40代

「鴨川自然王国」理事となり、里山帰農塾や様々な都市農村交流及び勉強会の企画運営を行っていきます。  
東日本大震災、福島原発事故の3・11が起き、東北支援のための「鴨川市大山支援村」を有志と立ち上げ、福島の子供たちの支援を始めました。  
「スマイル・レボリューション 3・11から持続可能な地域社会へ」を加藤登紀子さんと共著で出版しました。

### ・現在

里山全体と築200年の古民家を舞台に、村の長老たちからは「昔の知恵」を、パーマカルチャーからは「新しい知恵」を学ぶ「鴨川 地球生活楽校 Kamogawa Earth School」の開校準備中です。鴨川に来た時に受け取ったビジョン通り、釜沼北集落でのエコビレッジづくりを本格的に始めようとしています。

# 里都ナビゲーター：林良樹さんからのお話

## ■「鴨川の魅力と都市と農村をつなぐたくさんの扉」

鴨川は人口35000人、房総を横断する嶺岡山系と清澄山系に挟まれた細長い平野「長狭平野」に加茂川が太平洋へと流れ、山海の幸に恵まれ、気候は温暖で一年中花が咲き、野菜は何でもつくれ、天皇献上米にも選ばれた長狭米はもっちりと甘く、里山には棚田が広がり、日本の原風景が残る「美しい田舎」です。

しかし、山間部の農村集落では人口減少による過疎化が進み限界集落が増加しています。

80年代に第一次移住ブームが起こり、学生運動やヒッピー世代が都会から自然との共生を目指して移住して来ました。

鴨川自然王国の故藤本敏夫、ベジタリアン料理研究家の鶴田静、ハーモニクスライフセンターの森田玄、鴨川和綿農園の田畑健、アメリカ人の尺八奏者ジョン・海山・ネプチューン、科学者であり反原発のオピニオンリーダー故高木仁三郎などなど…。

そして2000年代に入り、第2次移住ブームが起こりました。30～40代の子育て世代及び団塊ジュニア世代が都市生活から、次々に脱出して来ました。

彼らの多くは地域通貨「安房マネー」に参加し、現在約180世帯300名のネットワークとなり、ゆるやかにつながる「意識のコミュニティ」を形成しています。

かといって移住者だけで理想郷をつくるのではなく、地元住民ともつながり共に都市農村交流を行い、それにより血縁を超えたふるさとづくりが行われ、移住者、地元住民、都市住民がつながる新しい里山コミュニティを創造し始めています。

それも鴨川の特徴のひとつです。

約14年前に始まった大山千枚田の棚田オーナー制の成功を受け、現在市内6集落で棚田オーナー制は広がり、ゴールデンウィークの田植えには約2000人も都市住民が訪れる賑わいを見せています。

棚田オーナー制以外にも、鴨川自然王国、みんなみの里、笹谷窯、あわのわコミュニティカフェ&マーケット、コミュニティカフェawanova、鴨川 地球生活楽校など、鴨川には都市と農村をつなぐたくさんの扉があり、年間延べ1万人以上が農的な体験に訪れています。

# 参加者同士の対話

各テーブルごとに自己紹介を行っていただき、「林良樹さんのお話を聞いて印象に残ったこと」などについて対話していただく時間を設けました。





# 里都プロジェクトスタッフより鴨川訪問体験談

2012年1月12日(木)に、里都プロジェクトスタッフが鴨川に訪問し、地元の方々からお話をうかがいました。その時に撮影した写真や感想などを共有させていただきました。





# 鴨川の魅力や取り組みについて質問

里都プロジェクトスタッフや参加者の皆さまより、鴨川の魅力や取り組みに関する質問を林良樹さんにさせていただきました。

具体的なお話をたくさん聞かせていただき、皆さん鴨川の魅力に引き込まれていきました。



# 本日の感想の共有

席替えを行い、各テーブルごとに本日の感想の共有を行っていただきました。  
参加者同士が気づきを共有しつながら作る、とても大切な時間になりました。





# 閉会

最後に里都プロジェクトスタッフより、今後の里都プロジェクトの活動についてお話をさせていただきました。(2012年2月20日(月)に、第二回里都づくりフォーラムを開催いたします)

閉会後もたくさんの方々が会場に残り、名刺交換や意見交換を行っていました。



## ■第2回・里都づくりフォーラムゲスト(里都ナビゲーター)

佐野淳也(さの じゅんや)さん



=====

「地球サミット2012Japan」副代表  
「エコビレッジ・ジャパン・ネットワーク」運営委員  
「Global Ecovillage Network Oceania & Asia」運営委員

=====

1971年徳島市生まれ。  
日本福祉大学社会福祉学部卒業  
一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了。

阪神大震災後の神戸での被災地支援NPOスタッフ、インド現地NGOでの1年間インターン(スラム研究)、葉っぱビジネスで有名な徳島県上勝町のまちづくり会社スタッフ、東京学芸大学環境学習研究員などを経て、2008年4月から2011年3月にかけ立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授として勤務。  
社会人大学院及びシニア向け生涯学習プログラムにてNPO・まちづくり・開発教育などを教える。

また、東京・池袋を拠点に「都市農山漁村交流しごと塾」を主宰し、ワールドカフェをはじめとした様々な対話と交流の場づくりを行った。

現在は、富士山の麓の農的エコビレッジ「木の花ファミリー」にて、77名の大家族とともに暮らす。  
担当はエコビレッジ教育・出版・研究。  
<http://www.konohana-family.org/>

共著に「幸福な共生社会を求めて」(ヒルトップ出版)、「多元的共生社会を求めて」(東信堂)、「地球が危ない!」(幻冬舎)。



木の花ファミリー  
静岡県富士宮市猿沢238-1 おひさまハウスひまわり/ Tel.0555-66-0250

